

文 献 紹 介

近年のアルベルトゥス・マグヌス文献

K・リーゼンフーバー

生存中から早くも、「我々の時代の驚異と奇跡」(nostri temporis stupor et miraculum : Ulrich de Strasbourg O.P., La "Summa de bono" J. Daguillon ed., p.139)と呼ばれたアルベルトゥス・マグヌスは、中世・近世を通じて強大な影響力を持ち得たにもかかわらず、新スコラ運動に於いては殆ど研究されることなく、見過ごされてきた。その理由のひとつは、アルベルトゥスの学問的営為が、彼の弟子トマス・アクィナスの余りにも輝やかなしい業績の陰に埋もれがちであり、内容的にもトマスの思想に汲み尽くされていると見られたことである。また、アルベルトゥスの莫大な著作の大部分はアリストテレス註解であり、註解という方法上、そこからアルベルトゥス自身の体系的な思想を読み取ることが甚だ難かしいため、彼独自の思想の存在自体を疑問視する見解が哲学史教程に於いて一種の流行になっていたことも、彼が軽視される大きな原因であったに違いない。

しかし、1980年にアルベルトゥスの没後700周年を迎えたことを契機に、ここ数年、アルベルトゥスの果たした歴史的・哲学的役割が、特にドイツ語圏に於ける多くの記念祝典・出版物を通して再評価され始めた。その中からここでは、アルベルトゥスの人格・生涯・司牧活動などに関する歴史的研究書や、単なる一般向きの通俗書などを除き、彼の自然学・哲学・神学を主題とする学術書のいくつかを紹介したい。

1. アルベルトゥス研究の第一の条件が原文に忠実なテキストにあることは言うまでもないが、古い全集版(リヨン1651年、パリ1890~93年)では、真作の欠落と偽書の混入に加えてテキストの誤りが非常に多かった。そこで、ボンケルン大司教区立アルベルトゥス・マグヌス研究所の編集による40巻の原文批評版全集の刊行

が企画され、1951年から現在までで、既に15巻が出版されている。

この全集がもとにしているアルベルトゥスの真作の写本は2000以上もあり、ヨーロッパ・合衆国の200余りの図書館に散収されているのであるが、研究所のメンバーのイエズス会士ファウザーは、近年の優れた古文書学的編集技術でその全ての写本に関して詳述する目録を刊行し（Winfried Fauser SJ, *Die Werke des Albertus Magnus in ihrer handschriftlichen Überlieferung. Teil I: Die echten Werke*, Verlag Aschendorff, Münster, 1982, XXVI und 483 S.），それを、恐らくこの目録によって目の目を見ることになったアルベルトゥス写本のもう2つの付随的なりすとで補った（Winfried Fauser SJ, in: *Bulletin de Philosophie Médiévale* 24(1982), pp. 119—129; 25(1983), pp. 100—120）。

数十年間の、地味ではあるが意欲的な研究活動によるこの大著には、13世紀から16世紀に至るまでのアルベルトゥスの74の著作の写本が、その断片・抜粋をも含めて全て収録されている。またそれらは、著作別に古文書学的に分析され、所蔵図書館とそこでの分類番号、枚数、書名、テキストの初めと終りの部分、成立の時期と場所、筆記者の氏名、また各写本に関する文献などが掲げられているだけでなく、アルベルトゥスの著作各々についての写本一覧表や8つの索引（p. 341—467）までが附せられ、この書の提供する膨大な情報が完全な形で利用されるような配慮がなされている。

この目録は、ケルン原文批評版を基礎づけるだけでなく、今後なお数十年を要すると思われる原文批評版の完成まで、写本への手引き書として、またアルベルトゥスの全著作の中世・近世に於ける普及度・影響史を見るうえでも中世哲学の研究者一般にとって最も貴重な資料であることは間違いない。例えば、アルベルトゥスの自然学的書物のうち特に『アリストテレスの自然学註解』、『鉱物について』、『動物について』などが中世で好評を博していたこと、純粋哲学の分野では『形而上学註解』や、知性論や靈魂論に関する書物が目立つこと、また33の神学的著作のうちミサ祭儀と聖体に関する2つの書は、特に15世紀には、偽ディオニシオス註解書をも上まわって広く読まれたことなどを写本の数から窺い知ることができ、興味深いのである。

2. 全集版や写本にまで溯れない、特に初めてアルベルトゥスの思想に触れる者

にとっては、彼の著作の選集は依然として望ましいものである。アルベルトゥス研究者として高名なフリーズ教授は、ケルン原文批評版と写本に基づき、ラテン語とドイツ語の対訳選集を作った (Albert Fries [Hgb.], *Albertus Magnus—Ausgewählte Texte*, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt, 1981, 265 S. [Texte zur Forschung 35])。ドミニコ会士エッケルト (W. P. Eckert) 教授によるアルベルトゥスの小伝記に続き、学問論と方法論、次いで自然学 (鉱物学, 植物学, 動物学, 錬金術, 天文学) と数学・幾何学, 哲学 (形而上学, 人間論, 倫理学), 最後に神学・聖書解釈についてのテキストが上手く選択され, またアルベルトゥスの難解で, しばしば簡潔すぎるラテン語の文章は巧みにドイツ語へ訳されて原文の意味が忠実に再現されている。

3. アルベルトゥスの思想は, 非常に多面的で, 当時の自然学・哲学・神学をアリストテレスを中心に網羅しようとしたものであるため, その学術的解明は, 未だアルベルトゥスの全体像に至らず断片的な研究の域を出ていない。しかし, 1980年にケルンで開催された第22回中世研究者大会でアルベルトゥスの思想が主題にされた際の, 20の研究発表を所載する論文集は, アルベルトゥス研究を確実に推し進めたに違いない (A. Zimmermann [Hgb.], *Albert der Große: seine Zeit, sein Werk, seine Wirkung*, Walter de Gruyter, Berlin, New York, 1981, 293 S. [Miscellanea Mediaevalia 14])。それらは, アルベルトゥスの自然学にも触れながら, 彼の形而上学と神学 (神理解, 存在論, 魂・知性論, 救済論など) に重点を置くものであるが, 14, 15世紀に於けるアルベルトゥスの影響と, トマス学派とは区別されたアルベルトゥス学派に関する7つの論文では, 中世後期思想・大学史の未だ殆ど探究されていなかった分野が開拓されている。

前掲書と同様論文集の形をとる, ドイツ・ドミニコ会を中心に編集された『アルベルトゥス・マグヌス——普遍的な博士』 (G. Meyer OP—A. Zimmermann, *Albertus Magnus, Doctor universalis: 1280/1980*, Matthias-Grünwald-Verlag, Mainz, 1980, 534 S. [Walberberger Studien, Philosophische Reihe 6], 1960年以來の文献目録付) は, アルベルトゥス思想の様々な側面をあげて, その全範囲を示唆しようとしている。アルベルトゥスの自然学の方法, 質料概念, 植物学, 動物学, 医学論と並んで彼の倫理思想, 聖書解釈をも展開し, またラテン・アヴェロエス主

義、あるいはクザヌスとの関係を探る2つの論文は、特に注目に値する。

学術性の高い上記の2つの論文集とは異なり、トロントの教皇庁立中世研究所から発行された論文集は、『アルベルトゥス・マグヌスと諸科学』というテーマに焦点がはっきりと絞られている (J. A. Weisheipl, OP [ed.], *Albertus Magnus and the Sciences. Commemorative Essays 1980*, Pontifical Institute of Mediaeval Studies, Toronto, 1980, 657 S.)。学術性と共に啓蒙的な面をも併せ持つこれらの21の論文は、彼の自然哲学と自然学の方法と具体的内容を、包括的に紹介している。自然学に於ける実験の必要性を強調したアルベルトゥスであるが、実際には殆ど無批判にアリストテレスの權威に従い、それに古代・中世の他の自然学教程の内容をも付け加えていたので、この論文集は13世紀半ば頃の自然理解と、自然科学的知識の全体像を概観するものになっている。

これまで述べてきた多くの研究成果を総括すると、——クレーマー・ルーゲンベルク教授が、啓蒙的目的で、しかし優れた専門知識に基づいて書いた著作 (Ingrid Craemer-Ruegenberg, *Albertus Magnus*, Verlag C. H. Beck, München, 1980, 188 S. [Beck'sche Schwarze Reihe 501]) の中で指摘しているように——アルベルトゥス思想の哲学史的位置付けは従来のままでは些か公平を欠くように思われる。というのは、これまで、アルベルトゥスのアリストテレス註解は、パラフレーズを大して越えず、その体系的著作に含まれる彼独自の哲学も思弁的創造力を多少欠いているのに対し、植物学・動物学では彼自らの観察と経験がかなり含まれており、中世の自然学に新たな展望を拓いた、という評価がなされていたからである。しかし現在では、アルベルトゥスは、経験的自然学に於いてなるほど広汎な知識を誇示しているが、それは殆ど全面的に (主としてアリストテレスの) 資料に負っていること、他方、哲学的な面では、彼のアリストテレス註解書と体系的著作の双方が、プラトン主義・アヴィケンナ的色彩の強いアリストテレス理解に基づいて、演繹的・体系的な原因論の形而上学を展開していることが明らかにされている。

なお、内容には触れなかったが、アルベルトゥスの没後700周年を記念して以下のものも刊行された。

Albert Fries, *Eine Quaestio des Albertus Magnus "De quiditate et esse"*, (Veröffentlichungen des Grabmann-Institutes 31), Ferdinand Schöningh, Paderborn-Mün-

chen-Wien-Zürich, 1983.

Paul Hoßfeld und Ernst Nellessen (Hrsg.), *Die Predigt des hl. Albertus Magnus zu Honnef*, Katholisches Pfarramt St. Johann Baptist, Bad Honnef, 1980.

F. J. Kovach and R. W. Shahan (ed.), *Albert the Great. Commemorative Essays*, (*Southwestern Journal of Philosophy* 10 (1979), n. 3), University of Oklahoma Press, Norman, 1980.

Obnovljeni Život 36 (1981), n. 2, Filozofsko-teološki institut Družbe Isusove, Zagreb, 1981.

Albert le Grand. Septième centenaire (*Archives de Philosophie* 43 (1980), n. 4), Beauchesne, Paris, 1980.

Francesco Sechi, *Immutabilità del diritto naturale in Alberto Magno. Schemi di comprensione della dispensatio* (Memorie del Seminario di storia della filosofia della Facoltà di magistero, Università di Sassari, 19), Istituto di Filosofia, Sassari, 1981.

Manfred Entrich OP (Hrsg.), *Albertus Magnus. Sein Leben und seine Bedeutung*, Verlag Styria, Graz-Wien-Köln, 1982.

Paul Hoßfeld, *Albertus Magnus als Naturphilosoph und Naturwissenschaftler*, Albertus-Magnus-Institut, Bonn, 1983.

Jakob Streit, *Albertus Magnus. Am Wendekreis des abendländischen Denkens*, Verlag Freies Geistesleben, Stuttgart, 1982.

Georg Schwaiger und Paul Mai (Hrsg.), *Albertus Magnus. Bischof von Regensburg und Kirchenlehrer. Gedenkschrift zum 700. Todestag*, Verlag des Vereins für Regensburger Bistumsgeschichte, Regensburg, 1980.

Historischer Verein Dillingen an der Donau (Hrsg.), *Albert von Lauingen 700 Jahre † Albertus Magnus. Festschrift 1980*, Leo-Druck KG Gundelfingen/Donau, Lauingen, 1980.

Hendrik van Bergh (Hrsg.), *Albertus Magnus*, Seewald Verlag, Stuttgart-Degerloch, 1980.